



## 盲導犬「ダイン」がいてこそ自分

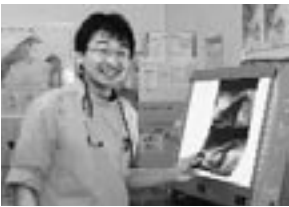
「鳥取ハーネスの会」会長

野澤 実さん / のざわみのる 国府町分上・53歳

鍼、灸、マッサージなどの治療院を経営しており、平成9年から盲導犬と暮らしています。以前は外出することがおっくうで、患者さんと接するだけの単調な生活の繰り返しでしたが、盲導犬のユーザーになってからは、今までのボランティアをしてもらうだけの受け身の生活から、自分ができるボランティアをやってみようと思うようになり、週に1回、デイサービスセンターでお年寄りのマッサージをしたり、小学校で視覚障害者や盲導犬についての話をしたりしています。盲導犬「ダイン」といっしょに行動することで、たくさんの人と出会い、自分自身が変わりました。ダインは、人生をとともに歩いていくパートナーで、僕にとっては生活の支えです。

ユーザーとその家族、支援者が互いに親睦を深め、盲導犬が社会に認められ理解してもらうことを目的に「鳥取ハーネスの会」を平成15年に発足し、さまざまな活動を展開中です。

現在、県内では8頭の盲導犬がいますが、そのうち5頭が鳥取市内で働いています。街を歩いているとき、盲導犬は仕事なので、さわったり食べ物を与えたりしないでください。また、盲導犬は十分な訓練を積んだ視覚障害者の大切なパートナーです。食事や買い物などの際、同伴にご理解をお願いします。



## 人と犬がともに幸せに暮らす

にしむら動物病院

西村 伸哉さん / にしむらしんや 丸山町・38歳

犬は従来、番犬あるいは、飼い主の健康のために散歩用として飼われてきたのですが、今では、飼うというより、家族の一員、対等のパートナーとしていっしょに暮らしている場合が多くなっています。このように犬と人間との距離が縮まったことにより、いろいろなトラブルも起きています。

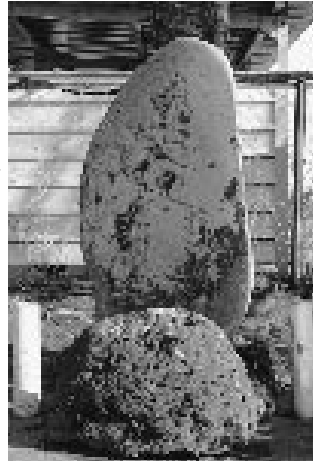
「噛む、吠える」というのは、犬にとっては本来の習性ですが、人と暮らすためには犬も変わらなくてはいけません。そこで重要になってくるのが飼い主さんの「しつけ」です。生後8週ぐらいから、アイコンタクト、おすわり、手にじゃれたときの対応、音にならすなどのトレーニングを行う必要があります。去勢や避妊手術も犬の問題行動を解決する一つの方法です。また、産まれた子犬を飼うことができない場合は避妊手術を施すといったことも飼い主の責任として行う必要があります。このように、犬を飼うという行為は、かわいがるといっただけでなく、飼い主としてのしっかりとした自覚を社会から求められるということも認識していただく必要があります。犬を買ったりもらったりして飼い始めたら、予防注射やしつけの相談など、動物病院へ早めに連れて来てください。人と犬がともに幸せに暮らせるよう、いい関係をつくりましょう。



## 家族の大切な一員

藤井 真由美さん / ふじいまゆみ 南安長・41歳

5年前から、ミニチュアダックスを飼っています。2年前に子犬を産み、今は親子2匹です。仕事から帰って抱っこすると気分が落ち着き、心が癒されます。犬のいない生活は考えられませんね。この子の出産のときは4匹に5時間かかり、へその緒を切るときはとても感動しました。また、生まれてからの2カ月間は、お乳を飲むのにあふれた子犬の世話や離乳食、その後はトイレなどのしつけを、友だちや動物病院に相談しながらやってきました。犬は大切な家族の一員です。狂犬病の予防注射はもちろんのこと、健やかに過ごせるようにワクチンや投薬なども定期的に行っています。また、ご近所や行った先々でかわいがられるのは、パートナーとしてこの上ない喜びです。フンの始末など飼い主のマナーが問題になっていますが、気をつけたいですね。



毎日、鐘が鳴るのを待っていたのです。国分寺の鐘が先に鳴ったら国分寺へ、法華寺の鐘が先に鳴ったら法華寺へ行って食べるといっように。

ところがある日、国分寺のお坊さんと法華寺の尼さんが話をし、同時に鐘を鳴らしたら犬はどいうするかを試そうということになりました。そして、同時に鐘をついたところ、二つのお寺の中ほど遊んでいた犬は、国分寺の方へ行ったり、法華寺の方へ行ったり、迷いに迷って疲れ果て死んでしまいました。お坊さんと尼さん

は、いたずらしたことを後悔し、犬の墓を造り、念仏を唱え手厚く葬ってやったそうです。この墓は「犬塚」と言われ、今でも法花寺集落にあります。以来、因幡地方では、どちらともつかないで判断できないことを「国分寺の犬」と言うようになりました。

■参考文献

野津 龍著「鳥取県伝説集(上) 因幡編」/「用瀬町誌」